

日本外交の転換

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

全ての対立から、融和へと転換する外交は、新しい世界との関係構築を模索し、世界における問題への行動を新たに実現できるものである。

これらは中台問題への橋渡し、ウイグルの人権問題の解決への提案、韓国と北朝鮮の統一への橋渡し、ミャンマーの健全な民主主義環境構築への提案、アフガニスタンの女性問題など、日本が自己プレゼンスを模索することは新たな国際社会における自己プレゼンスを実現できるのである。

これらは自由主義陣営における自己の基盤が、東洋というルーツにおける可能性を有し、これら自己のポジションが、西洋陣営と異なる可能性を提示できるのである。

これらは日本外交の新たな可能性であり、独自外交という新しい可能性を提案するものである。

また極東アジアにおける平和の構築へ、中国、台湾、韓国、北朝鮮、日本における会議の開催などにおいて、自己のプレゼンスを提案することは可能なのである。

これらは新たなアジア外交において、アジアのルーツに基盤する自己が、新たな外交基軸を求めることにおいても可能なのである。

これらは現状の大きな打開を可能とできるものであり、世界情勢の変化への正しい自己判断であることは提案できると考えるものである。

これらはアラブ諸国との新しい関係の構築などは、産業の育成は技術協力などにおける可能性は存在するのである。

これらは、可能性であり、現状の大きな閉鎖性の打開への提案であり、これらは独自外交における自立と独立へのシフトを提案できるものである。

これら現状からの転換は、アメリカ依存から新たな世界における自己プレゼンスの構築を実現できるのである。